

に隨て猥に藥をあたふるがごとし、忠をつくして療すれ共、病の發たる根源を不知故に、倍病惱重て不愈がごとし、されば世のみだる、根源は何よりおこるぞといへば、只欲を本とせり、此欲心一切に變じて、萬般の禍となる也、是天下の大病にあらずや、是を療せんと思ひ給は、先此欲心をうしなひたまへ、天下をのづから勞せずして治るべしと云々、泰時申云、此條最肝要にて候、但我身計は、心の及候はん程は、此旨を堅守べしといへども、人々此無欲にならずば、天下治がたし、如何して此無欲の心を、人毎に持する謀候べきと云々、上人答たまはく、其段はやすかるべし、只大守一人の心によるべし、古人曰、未有其身正、影曲、其改政國亂と云々、此正といふは無欲也、又云、君子居其室、言出、善則千里外皆應之と云々、此善といふも無欲也、只大守一人實に無欲に成すまし給は、其徳にいふせられ、其用に恥て、國家の萬民、自然に欲心うすく成べく、小欲知足ならば、天下やすく治るべし、天下の人の欲心深訴來らば、我欲心のなをらぬゆへぞと知て、我方に心をかへして、我身を恥しめ給へし、彼を咎に行給べからず、縦ば我身のゆがみたる影の水にうつりたるをみて、我身をば正しくなさずして、影のゆがみたるを嘆て、影を咎に行はんとせむがごとし、心ある人のそばにて見て、をこがましく思事也、略中されば大守一人の小欲に成給は、一天下の人皆かゝるべしと云々、此教訓を承しに、心肝に銘じて、深く大願を發し、心中に誓て、此趣を守き、略下

〔乳母のふみ〕なにはのこのよしあしをも、おぼしめしわき候はんまでは、うきをも玄のびすぐして、御身をさらぬまもりにとこそ、おもひまいらせ候つるに、をのが世々にもなりぬべく候事、のさやは契しとおきふしなげかれ候に、御ふみ見候へば、いさめしものと見えさぶらふこそ、あはれにおぼえ候へげにさぞおぼし召候らんと、御こゝろぐるしうて、ちかきほどのおもひやりだになく、都鳥にことゝふたよりも候はぬ身のかへるなみをのみうらやみて、くもでに思ふこ